

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03132

研究課題名(和文)再洗礼派と近世ヨーロッパの民間信仰：スイスからアメリカへ

研究課題名(英文)The Anabaptists and European Popular Religion in the Early Modern Period: From Switzerland to America

研究代表者

踊 共二(Odori, Tomoji)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：20201999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はヨーロッパの宗教改革から派生した再洗礼派(とくにスイス起源のメノナイトとアーミッシュ)を対象としている。従来これらの分派は信仰内容と組織原理において宗教改革の正統派以上に「近代的」とされてきた。しかし彼らは現実には前近代の価値観・習俗・心性を保ちつづけていた。そこには魔術的实践や信仰治療も含まれる。これらの要素を維持したまま彼らはアメリカに移住し、今日に至っている。本研究はこのことを実証的に明らかにし、宗教改革を「近代」の出発点とみる歴史観の相対化を試みたものである。なお、この前近代的性格が民衆世界に潜行する再洗礼派の生き残りを助けた事実を明らかにしたこと本研究成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヨーロッパの宗教改革はルターやカルヴァンなどの著名人によって代表されてきた。しかし彼らの周辺には幾多の改革者や運動家があり、その全体像を把握するには傍流にも目を向けねばならない。再洗礼派はとくに正統派の思想と行動を超える「近代性」をもつと言われてきた。本研究はその説を批判し、前近代的な民衆的文化と心性の残存とその社会的帰結(すなわち為政者によって禁圧された宗教運動が民衆世界で保護され、生き残りの可能性を得るプロセス)を実証的に解明したものであり、新しい事実を確認した点で学術的意義がある。また西洋的な「近代」とは何か、それは民衆的文化との切断を意味するのか、再考を促す点で社会的にも意義がある。

研究成果の概要(英文)：This research deals with the Anabaptist groups (above all the Mennonites and the Amish from Switzerland) as representatives of the Radical Reformation. Despite the alleged "modernity" of the belief system and free will-based organization of the Anabaptists, they have inherited a rich tradition of European popular culture including magical practices called "Braucherei" or "powwowing" in North America. The very practices with their old cultural background enabled the "survival" of the Anabaptists living in the remote countryside where villagers and towners sometimes helped the Anabaptists because they did no harm to them and in some cases were kind enough to offer them medical care they and their livestock needed. Also in North America, the Anabaptists could be good neighbors to the people from different denominations living nearby because of the shared "deep" culture that was more and more becoming suppressed.

研究分野：西洋史

キーワード：宗教改革 再洗礼派 メノナイト アーミッシュ 民衆文化 魔術 脱魔術化 世俗化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

16世紀ヨーロッパの宗教改革の傍流としての再洗礼派は国家と教会(政治と宗教)の癒着を厳しく批判し、激しい迫害を受けながら、信仰の自由を求めて地下活動を展開した。そのためイギリスのピューリタン諸派と同じく近代的な「政教分離」の先駆者とみなされてきた。ただし再洗礼派はその極端な分離主義ゆえに社会変革の力を欠く現世逃避的セクトにとどまったと論じる歴史家もいる。いずれにしても、再洗礼派のなかにはオランダ・イギリス経由で17世紀から19世紀にかけて北アメリカに亡命(移民)する者も多かったから、研究者のあいだには彼らの信仰内容と組織原理の「新しさ」を重視する傾向が強かった。この傾向は実際、現在も強いままである。そのため再洗礼派の信徒たちが前近代社会の古い生活様式や習俗あるいは心性をどの程度まで残していたか、あるいは棄て去っていたかを実証的に問う研究はほとんどない。たしかに再洗礼派は、たとえば幼児洗礼が子どもを悪魔から守るというカトリック教会の古い教えやミサ聖祭におけるキリストの實在(実体変化)を「迷信」として退けたので「近代的」に見える。しかし彼らの伝承(とりわけ殉教者たちの奇跡物語)には、また共同体内部で行う医療のあり方(すなわち薬草治療や信仰療法)には前近代的な要素が看取される。北アメリカの東部・中西部に渡って定住した再洗礼派の一派であるアーミッシュの世界に現在も残る独特の呪術(パウワウ)には、悪魔祓いや魔女退治の術も含まれている。しかしそうした呪術(魔術)的信仰の歴史的ルーツを解明する比較史的・交流史的な実証研究は管見の限り存在しない(別のテーマの論考に断片的な言及があるだけである)。この空隙を埋める必要があると考えたことが本研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ヨーロッパにおける再洗礼派の一大中心地であったスイス・アルプス地域から17世紀後半以降にドイツ・フランス東部・オランダなどを経由して北アメリカに渡った亡命者たち(とりわけスイス系メノナイトとアーミッシュの家族集団、親族集団)の旅路とペンシルヴァニア州・オハイオ州・インディアナ州などの未開拓地への入植・定住・共同体形成の過程を追い、彼らがいかなる性質の宗教・習俗・心性を故郷からアメリカにもたらし、根づかせたかを明らかにすることである。この作業はヨーロッパの宗教改革を「近代化」「世俗化」「脱魔術化」の起爆剤とみなす歴史理解を修正し、古い習俗・心性ないし世界観の生命力を意識した近代世界論を構築することに貢献しうる。言い換えれば、欧米世界の歴史の概説の書き換えも本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究を遂行するにはアメリカとヨーロッパ(とりわけスイス・アルプス地域およびスイス系再洗礼派の欧州内滞在地であるドイツ各地・フランス東部・オランダ)の両方で調査を行い、それらの場所で発見した一次史料(文字史料や画像史料)を比較検討することによって同一性ないし類似性を明らかにする方法をとらなければならない。とくに注目するのは、北米(ペンシルヴェニア州・オハイオ州・インディアナ州など)に入植したスイス系再洗礼派(メノナイトとアーミッシュ)が故郷から持ち込んだ宗教書・歴史書や実用書(暦書や医術書)、魔術手引書(スペルブック)などである。またアメリカの地で彼らが製作した護符(お守り)、ゴシック体(フラクトゥア)の手書き文字をあしらった家族(家系)の記録、出生証明書、婚姻証明書、教訓や祈りの言葉を記した壁掛けなどである(現代の再洗礼派の末裔たちの自伝・回想録・書簡類も傍証として用いる)。それらの内容とスイス・アルプス地域とくにチューリヒやベルンの農村部(山間部)で見つかる同種の史料の内容を突き合わせることで上に記した研究目的は達成できる。

4. 研究成果

1年目(2016年度)はまず、ヨーロッパの再洗礼派および彼らを取りまく社会・政治・文化に関する新しい研究書や史料集を収集し、最新の知識を得て個別的・実証的な研究を独自に行う基盤を築いた。佐賀大学の近世ドイツ史研究者(故人)の史料コレクションを総合的に調査することができたことも2016年度の成果であった(コレクションの一部の譲を受けたので、引きつづき活用することができた)。なおこの年度にはオランダとドイツでの現地調査も行ったが、とくにアムステルダム市立公文書館に所蔵されている未刊行の書簡、嘆願書、義捐金帳簿等を調べ、約50点(416枚)を複写・電子化することができた(収集した史料の分析の結果、当時すでにオランダで寛容の対象となっていたメノナイトたちが迫害を受けつづけるスイス系再洗礼派を支援し、滞在費や渡航費を拠出していたこと、この交流の過程でヨーロッパ各地を結ぶ広範囲の宗派的アイデンティティの形成が進んでスイス再洗礼派とメノナイトの合流が生じたこと、そして彼らのあいだで父祖たちの苦難、殉教、神秘的体験の記録、生活術、医術などの共有・継承がなされたことが具体的に確認できた)。史跡の巡見については、古くから再洗礼派の共同体が存在するオランダのアムステルダム、ライデン、ユトレヒト、ハーレム、ドイツのミュンスターなどを対象とした。再洗礼派はこうした拠点をたどってヨーロッパ各地を移動し、さらには大西洋を渡ったのだが、どれほど長い旅をしても彼らは父祖の精神的遺産を守りつづ

けた。とりわけ再洗礼派は自らのアイデンティティの拠り所として殉教者の記録を重視するが、それらの記録は超自然的な「奇跡」に満ちており、そこには明らかに「魔術」(呪術)の要素があった。そして彼らの「祈り」には「呪文」の要素があった。なお当初はドイツ語やオランダ語で記されていた殉教者伝とりわけ 1000 頁を超える大冊である『殉教者の鏡』(1660年初版/オランダ語)は北アメリカの地で独訳・英訳されて普及し、各種の集会のさいに朗読され、家庭教育にも用いられるようになり、新天地に渡った再洗礼派の心性を何世代にもわたって規定しつづけることになった。

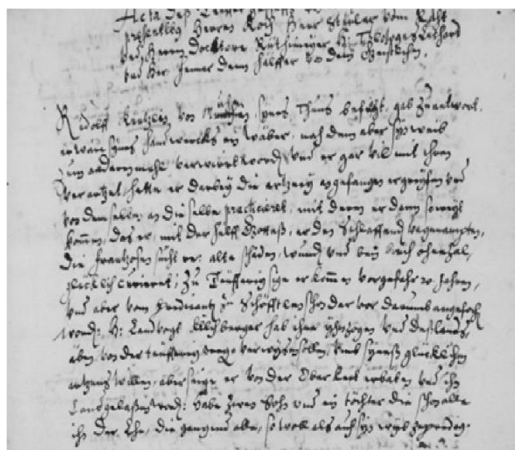
2年目(2017年度)はアメリカを中心にした調査を行ったが、この年はドイツ宗教改革500年の記念の年であり、学術的企画が内外で数多く実施されたので、アメリカでの調査に先立ってドイツの学会(国際宗教改革研究コンソシアム大会)において宗教改革と宗教的マイノリティに関する研究発表を行った(ヨーロッパの再洗礼派と日本の潜伏キリスト教徒すなわち隠れキリシタンの比較も行った)。なおこの国際宗教改革研究コンソシアム大会にはアメリカでの調査を行うさいの研究協力者(アメリカ人)も参加していたため、情報交換を行うことができた。この学会参加にあわせて行ったヨーロッパでのリサーチの際には、ハンブルク(アルトナ地区)、クレーフェルトなどに現存する17世紀以来の再洗礼派教会(スイス系の亡命者たちの子孫を核とするメノナイトの共同体)での聞き取り調査と史料調査を実施することができた。アーミッシュ初代のリーダーであるヤーコブ・アマンの亡命地、フランス東部(アルザス)のサント・マリー・オ・ミーヌでも史跡調査を行った。スイスではベルン、シャフハウゼン、バーゼル等の図書館で研究上有意義な17世紀の手稿史料を発見、複写することができた。その後で訪問したアメリカではペンシルヴァニア州クッツタウン大学のドイツ文化研究所の所長(ドイツ系移民の呪術と民間医療の研究者)と研究交流(意見交換)を行うことができた。オハイオ州のアーミッシュ教会員の自宅で手稿史料を閲覧・複写できたことも成果である(薬草の扱いに関する伝承や家系の記録などである)。なおペンシルヴァニア州ランカスター郡では18世紀前半のメノナイト派スイス移民の子孫を対象とする聞き取りも行った(メノナイト派のエスニックマイノリティとしての自意識が浮き彫りになったが、呪術的な民間医療については批判的であり、保守派のアーミッシュとの違いがわかった)。なお2017年度には国内においても比較史的研究のために隠れキリシタンの習俗・伝承・奇跡譚に関する調査を行った。五島列島(新上五島町中通島)での聞き取り調査、史跡調査、岩手県大籠地区、大阪府茨木市での史跡調査を行い、いくつかの論考にその成果の一部を発表することができた。再洗礼派の歴史を含む宗教改革史の論集(書籍)の刊行も果たせた。以上の研究は本務先で1年間の長期研修を許されたことで円滑に遂行できた。

3年目(2018年度)は前年度までの海外史料調査・収集、史跡調査、海外での学会発表、内外の研究者との情報交換を土台として一次史料の解説・分析、先行研究と新しい研究のサーベイ、成果公表の準備を国内で行った。研究成果の一部は『武蔵大学人文学会雑誌』に発表した。また国立民族学博物館でのアーミッシュ関係の展示企画に同館の文化資源共同研究員として協力し、公開講演および『月刊みんぱく』への原稿掲載を通じて一般向けにも研究成果を公表した。前年度にドイツで行った国際宗教改革研究コンソシアム大会での発表の内容をドイツの出版物(書籍)の一章として英文で掲載できたこともこの年度の研究成果であり、本研究は国内だけでなく国外にも一定のインパクトを与えている(他の研究者による引用や言及も増えている)。なお前述のとおり、本研究にはアルプス山岳地帯の民衆文化がどのように大西洋を越えてアメリカにもたらされ、保存されたかを解明する目的があり、アルプス地域史研究を内包しているため、日本のアルプス史の研究者との交流にも力を入れた。2018年にはこの研究交流の成果の一部を『西洋史学』に書評(研究紹介)の形で掲載している。2018年度には、その前年にドイツで行った現地調査の内容に関する記事がドイツの新聞に掲載されたことも付言しておく。

4年目(2019年度)も国内だけで研究を行った。内外の研究者との情報交換を行い、関連する他の科研グループによるシンポジウムにディスカッサントとして2回参加した。その際には海外の研究者たちの発表に対するコメントを行った。本務先でのワークショップも実施した。そのために再洗礼派の歴史を研究するゲスト講演者を招いた。企画タイトルは「近世ドイツ語圏の預言・奇跡・呪術」である(実施日は2019年12月13日である)。2019年度には本研究のまとめとして『武蔵大学人文学会雑誌』に論文を掲載したが、これは2016年度と2017年度に海外で行った調査と最新の研究文献の精読にもとづいており、現代のアーミッシュとメノナイトの魔術的慣習の諸事例を示し、それらのルーツを移民前のスイス・フランス東部・ドイツ等に求め、民衆的文化・魔術的心性の数世紀にわたる連続を実証的に明らかにしたものである。具体的事例としては奇跡信仰、天使信仰、亡霊信仰、祈り(呪文)と「手あて」による止血や解熱、痣や疣の除去、温泉治療といった民間医療、魔除け・魔女退治・泥棒退治・弾除け・虫退治のための護符の利用、さまざまな病に効く薬草・軟膏・シロップの調合などである。なお中世後期から近世にかけてヨーロッパとくにドイツで広く読まれ、通俗版や写本・メモ版としても出回っていた『モーセ第六・第七書』『アルベルトゥス・マグヌスの秘法』『ジブシーの書』

などの魔術手引書や、天体の運行と農事、人間の健康などを結びつけて解説した農業書・暦書などがアメリカにも持ち込まれていたのだが、ペンシルヴァニア州パークス郡のドイツ系移民ヨハン・ゲオルク・ホーマンはそれらをもとに『失われた旧友』と題する魔術書・医術書を1820年に上梓している。ホーマンはカトリック教徒であったが、彼の伝える魔術や民間医療自体は再洗礼派のあいだでも知られていた。このような伝統ないし基層文化を16・17世紀から保っていた再洗礼派は潜伏地や亡命地の地域住民との連帯・相互援助を図ることができた。すなわち圧政に苦しむ者どうしの救護活動、民間医療の相互提供、生活必需品の交換、隠れ家の確保、道徳令・教会出席命令にもとづく取締り・逮捕・連行の回避などである。注目すべきは民衆世界における宗派的帰属の相対化である。

図版 1



図版 2



じつはこのことが、つまり再洗礼派が「近代化」も「世俗化」も「脱魔術化」を求めず宗派を超えた民衆の連帯を志向したことが、彼らの生き残りを助けることにもつながっていた。こうした連帯は現代の再洗礼派共同体と周辺住民のあいだにも確認できる。たとえばアーミッシュは医術と生活必需品の融通に関しては周辺住民と幅広く交流している（開拓時代には先住民との平和的な交流・交易も行われていた）。このような事実が確認できたことも本研究の成果である。再洗礼派はこれまで言われていたほど分離主義的ではないし現世逃避的でもない。グループごとに違いはあるものの、マックス・ヴェーバーのいう「現世的禁欲」を指向していたとも判断できる。再洗礼派のあいだでは厳格な教養を背景とした「勤勉」が現世的な「富」を生むメカニズムさえ確認できる（権力と結びついた既成の教会を避け、当局の取り締まりを逃れて地下活動を行うことと修道院的な現世逃避を試みることはそもそも別の現象であり、再洗礼派を修道院的共同体と位置づけることはできない）。なお再洗礼派が展開した地下活動には日本の隠れキリシタンの信仰と生活様式と共通する面がある。東西の信仰秘匿（国家宗教に対する不服従）に関する比較史的研究は必要不可欠である。その研究成果の一部はすでに英文で公表しているが、『季刊民族学』に日本語でも掲載する予定である。なお宗教改革の歴史認識（近代世界論・近代化論）を見直す概説レベルの問題提起については『歴史と地理』や『歴史地理教育』誌上で行ってきたが、『岩波講座世界歴史』の新シリーズでも実現する予定である。

（図版 1）17 世紀スイス（ベルン領）の再洗礼派治療師キュンツリに関する当局の記録（1645 年）。彼は再洗礼派以外の患者にも医療を提供していたことがわかる。Staatsarchiv des Kantons Bern BIII 194,4.

（図版 2）18 世紀スイス（ベルン領）で制作された護符（1733 年）。同種のものがアメリカのドイツ系・スイス系移民（再洗礼派を含む）のあいだで作られつづけ、家や納屋の壁・柱・入口などに魔除けとして、あるいは祝福の願いを込めて貼られた。Staatsarchiv des Kantons Bern N Rubi 58.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 踊 共二	4. 巻 50-1
2. 論文標題 創られたドイツ宗教改革：現代史的考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 踊 共二	4. 巻 716
2. 論文標題 宗教改革500年をふりかえって：記念日の歴史学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理：世界史の研究 716 61-64 2018年8月	6. 最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 踊 共二	4. 巻 42-6
2. 論文標題 アーミッシュの信仰と生活：ヨーロッパ文化の古層	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 踊 共二	4. 巻 40
2. 論文標題 宗派化と世俗化の歴史解釈：ヨーロッパ史からグローバルヒストリーへ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 97-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 踊 共二	4. 巻 873
2. 論文標題 世界史のなかの宗教改革	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 踊 共二	4. 巻 51-2/3/4
2. 論文標題 起きなかった脱魔術化：メノナイトとアーミッシュの反近代史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 踊 共二	4. 巻 174
2. 論文標題 再洗礼派とかくれキリシタン：東西の信仰秘匿者たち	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊民族学(掲載決定済)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 3件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 踊 共二
2. 発表標題 アーミッシュの信仰と文化：歴史から現代へ
3. 学会等名 国立民族学博物館友の会講演会(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 踊共二（編著者）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 記憶と忘却のドイツ宗教改革：語りなおす歴史 1517～2017	

1. 著者名 関哲之、踊共二	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 244
3. 書名 忘れられたマイノリティ：迫害と共生のヨーロッパ史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ODORI Tomoji, The European Reformation and the Christian Minority in Early Modern Japan, in: More than Luther. The Reformation and the Rise of Pluralism in Europe, ed. by K. Apperloo-Boersma and H. J. Selderhuis, Vandenhoeck und Ruprecht, 2019 (担当範囲：221-240)</p> <p>ODORI Tomoji, God's Vengeance and Forgiveness for Enemies, in: Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World: Coexistence and Dialogue from the 12th to the 20th Centuries, ed. by Katsumi Fukasawa, Benjamin J. Kaplan, and Pierre-Yves Beaurepaire, Routledge, 2017 (担当範囲：49-65)</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考